

部長を経験して

城山中学校 三年 服部 慧一

「私は今、自信に満ちあふれている！」とまで言ったら大げさかもしれないが、中学校一年の時よりも、二年の時よりも、自分を褒めたい気持ちがとても大きくなっている。その理由は、陸上部の部長として頑張っているからだ。部長として、陸上競技で良い結果を残す事と、部員をまとめる事に一生懸命取り組んでいる。それはとても大切な経験となっている。

なぜ、私が部長になったかという点、前部長に指名されたからだ。指名された時は、先輩達から信頼されている証拠だと思い、とても嬉しかった。一年生で入部してからほとんど休まずに練習に参加して、自己ベストを更新できるように努力していた。実際、記録もどんどん良くなっていた。それを先輩達がしっかりと見ていてくれたのだと実感した。

初めのうちは、部長という役割をよく分からないでやっていたが、そのうち自分の中で部長としての望みが出てきた。先輩も後輩も関係なく部員みんなが仲良しで、退部する人が少ない部活、楽しいと思ってもらえる部活にしたいと思うようになった。

しかし、それはそんなに簡単ではなかった。新一年生が入部してから後輩部員が約五十人。この人数をまとめるのは本当に大変だった。大声を出して指示を出しても、聞いていない部員、聞こえているけど真面目に取り組んでくれない部員がいつもいた。どんなに大きな声を出しても、指示を聞いてくれないのが嫌になり、みんなを置いて一人で先に帰った事も二度ほどあった。心が疲れ切ってしまう、その場にいるのがつらかったのだ。ものすごく悔しかった。ものすごく落ちこんだ。涙が出そうなくらい悲しかった。その日はひとり家ですっと悩んでいた。笑顔になることさえ出来なかった。それでも翌日になれば、部長としての責任を感じて練習に参加した。

自分の選んだ種目で良い結果を残さなければ、部員みんなに尊敬されない。尊敬されるような存在でなければ、部員みんなが指示に従ってくれないと思うようになった。だから私は良い結果を出すために、人一倍、練習を頑張ろうと決めた。

卒業していった陸上部の先輩が、時々放課後練習に顔を出してくれる。その時はものすごく嬉しい。頑張っていた私の姿を見てくれた先輩、部員をまとめるのが大変である事を知っている先輩。私を応援してくれているから、練習に来てくれると本当に嬉しくて、またつらいことがあっても頑張ろうと思えた。

部長になって半年以上過ぎ、ようやく部員みんなをまとめる事が出来てきた。ちょうどその頃、運動会があった。私は選抜ブロックリレーに出ることになった。陸上部としては見

せ場である。私はドキドキしながらも、とにかく全力で走った。青色のハチマキを締めて応援席の前を走った時、部活の後輩達が大きな声で応援してくれているのが分かった。なんと、敵チームである赤色、黄色の応援席からも、私の名前を呼んで応援してくれている声が聞こえてきた。嬉しくて、走りながら笑顔になった。部長になったばかりの時、みんなをまとめられず苦労した経験がなければ、こんなに嬉しい気持ちにはならなかったと思う。後輩だけれど、みんな親友だと感じた。

正直、部長を辞めたいと思うような出来事が何度もあった。しかし、部長であるという責任を感じながら、いろいろな苦労を乗り越えて、他に変えられない経験が出来た。その経験は宝だと思う。そして私は今、どんな事にも自信を持っている。生きていけば、これからも苦労する事はたくさんあると思う。そのような出来事に突き当たった時は、部長として経験した事を生かして、絶対に乗り越えてみせる。それから、友達を大切にして、大人になっても助け合いながら生きていきたいと思う。